



～クレア助成事業の巻～

安全・安心なまちを目指して (セーフコミュニティ)

東京都豊島区セーフコミュニティ推進室

はじめに

自治体にとって、「安全・安心」はとても重要な課題でありながら、その推進にはとても難しいものがあります。「自助・共助・公助」とも言われるように、自治体・警察・消防などの行政機関だけでなく、地域住民の参加が必要になってきますが、うまく効果を上げるようになるにはいろいろな課題を解決しなければなりません。

そんな中、“セーフコミュニティ”に注目が集まっています。セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）地域の安全向上のための協働センター（以下、「WHO協働センター」）が推進する安全・安心まちづくりに関する国際認証制度です。全世界で約300都市が認証を受けており、現在急速に広がりつつある制度ではありますが、日本はまだ6都市が認証を受けるにとどまっています。

そこで、東京の豊島区、長野県の箕輪町、小諸市の3自治体が共同で、セーフコミュニティ活動を国内に広げるとともに国際交流を広げる機会を創出するため、日本で初めてのアジア地域セーフコミュニティ会議を開催することにしました。

アジア地域セーフコミュニティ会議の開催経緯

第1回	スウォン（韓国）
第2回	ダッカ（バングラディシュ）
第3回	台北（台湾）
第4回	バンコク（タイ）
第5回	北京（中国）

セーフコミュニティ活動とは

セーフコミュニティは、1970年代後半に、スウェーデンの中央部に位置するファールショッピングという小さなまちから始まりました。「けがや事故は偶然の結果ではなく、原因を究明することで必ず予防できる」という理念のもと、安全と

健康の質を高めていくまちづくり活動です。

その活動の特徴は、「部門を越えた横断的な連携・協働」を広げ、従来の壁を乗り越えて推進力を生み出すこと、そして、予防活動に「科学的手法の活用」を取り入れ、客観的なデータに基づき「活動方針」「予防活動」「効果確認」「改善」のサイクルを効果的に回し続けることの2点が挙げられます。

アジア地域セーフコミュニティ会議 およびトラベリングセミナー

(1) 開催までの経緯

セーフコミュニティでは、2年に一度世界会議が、世界会議が開催されない年には、大陸ごとに地域会議が開催されます。

3自治体は2011年9月に実行委員会を立ち上げて、アジア地域の会議の準備を始めました。実行委員会には、すでにセーフコミュニティ認証団体である京都府亀岡市、神奈川県厚木市や日本セーフコミュニティ推進機構などの団体からも委員を集め、オールジャパンの体制で準備を進めました。幸いなことに、ちょうどそのころ、クレアから助成金交付募集要項が出されたので、活用させてもらうことにしました。

(2) セーフコミュニティ会議

会議は、11月28日から3日間開催され、海外19か国142人、国内285人の参加がありました。

アジア地域セーフコミュニティ会議プログラム

	11/28	11/29	11/30
会場	東京芸術劇場	サンシャインシティ	
午前	受付	基調講演 記念講演	分科会
午後	開会式 基調講演 認証式	分科会	トラベリングセミナー (箕輪町へ移動)

海外からの会議参加者（国籍）

国籍	人数
台湾	46
韓国	43
タイ	21
インド	7
中国	3
香港	3
バングラディシュ	3
スウェーデン	3
モンゴル	2
アメリカ合衆国	2

国籍	人数
マレーシア	1
パキスタン	1
スリランカ	1
フィリピン	1
シンガポール	1
UAE	1
リトアニア	1
コロンビア	1
南アフリカ	1
合計	142

東京芸術劇場で行われた開会式は、豊島区のセーフコミュニティ認証式典も合わせて行



記念講演

われるとあって、2,000人を超える聴衆が集まりました。そこでは、セーフコミュニティの創始者であるレイフ・スヴァンストロームWHO協働センター長から「セーフコミュニティの歴史と展望」と題する記念講演が行われました。

次の日からは会場をサンシャインシティ・カンファレンスルームへ移し、基調講演や分科会を開催しました。基調講演は、日本、韓国、タイ、アメリカ、バングラディシュから計6人の研究者から、貴重な研究成果の発表などがありました。分科会は、国内外を問わずさまざまな領域の研究者、実践者、自治体関係者が集まり地域社会の安全・安心の向上



分科会の様子

に向けた議論が分野を越えて繰り広げられました。分科会は96人もの発表者がいて大盛況でした。

分科会（11テーマ発表者総数96人）

テーマ	海外	日本
子どもの安全	8	6
高齢者の安全	2	6
交通安全	12	6
家庭／職場の安全	6	1
学校の安全	5	6
地震・自然災害	5	3
暴力の抑止	2	3
自殺の予防	2	3
多様なSC活動	3	4
けがのサーベイランス	3	5
予防活動の評価方法	5	—
計	53	43

今回の会議が有意義なものになるよう、基調講演、分科会すべての会場に同時通訳を配置しました。

会場の中央には、ポスターによる発表スパー

スも設けられ、海外の自治体を中心に約60もの発表がありました。その付近には机や椅子



ポスターセッション

を十分に配置し、参加者が国や分野を越えて情報交換できるように交流スペースを作りました。交流スペースにおいてもコミュニケーションが円滑に行われるよう十分な人数の通訳を配置しました。特に、立教大学生による通訳ボランティアは、海外からの参加者をもてなすに十分な活躍をしてもらっただけでなく、本人たちにとっても貴重な経験となったようでした。

(3) トラベリングセミナー

アジア会議終了後、希望者はバスに分乗し、箕輪町、小諸市へのトラベリングセミナーに出発しました。

トラベリングセミナー

	11/30	12/1	12/2
午前	(セーフコミュニティ会議)	箕輪町 ・消防による防災活動 ・セーフコミュニティモデル地区	小諸市 ・交通安全対策 ・防災対策
午後	(箕輪町へ移動) ・歓迎セレモニー ・懇親会	(小諸市へ移動) ・小諸市セーフコミュニティ認証式典 ・認証祝賀会	(東京へ移動)

トラベリングセミナー参加者は、実際の活動を視察したり参加したりします。

ここでは、地域の方が活動を紹介し、イベントを行うなど、市民レベルでの国際交流が行われました。

今後の展開

会議は成功裡に終わり、参加者からはいままでの会議の中で一番良かったとのお褒めをいただきました。

今後は、セーフコミュニティに関心を持つ国内都市とアジア地域各都市との間に国際交流の芽を育て、多対多の関係で国際ネットワークを構築していきたいと考えています。

最後に、クレアの助成金によって開催できたこの会議が、少しでもけがや事故を減らすきっかけとなってくれば幸いです。